



# 日本語学習者によるアクセントの意識化を伴う発音 訓練の効果

阿栄娜  
林, 良子

---

**(Citation)**

研究集会「日本語音声コミュニケーション研究のこれまでとこれから」予稿集:62-62

**(Issue Date)**

2015-03-31

**(Resource Type)**

conference object

**(Version)**

Version of Record

**(URL)**

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/90003770>



# 日本語学習者によるアクセントの意識化を伴う発音訓練の効果

阿栄娜(国立障害者リハビリテーションセンター研究所), 林良子(神戸大学)

## 背景

自然な日本語の発音(アクセント)

- 日本語学習者にとって非常に大切
- しかし, 習得が困難である
- アクセントの習得に「意識化」が重要 [1]
- アクセントの意識化によってアクセントの習得が促進される [2]

◆ 意識化 (consciousness-raising) とは  
意図的に学習者の注意を目標言語の言語形式へ向けさせること [3].

## 本研究の目的

アクセントの意識化を伴う発音訓練が日本語学習者のアクセントの聞き取りと産出(発音)に与える効果を検証

## 方法

- **実験参加者**  
中国語を母語とする初級日本語学習者20名  
➢ 実験群: アクセントを意識化する10名  
➢ 統制群: 意識化しない10名
- **発音訓練**  
復唱(repeating, 聞き終わってから話す)とシャドーイング(shadowing, 聞きながら話す)を複数回実施  
→異なる課題文を使用
- **手順**



### ● アクセントを意識させる方法

実験群に, 教材[4]を用いて日本語のアクセントに関する知識を指導し, アクセントを意識させる訓練を行った

### ● アクセント核の聞き取りテスト

「東京語アクセントの聞き取りテスト」の「テスト1」[5]

### ● アクセントの産出の正答率

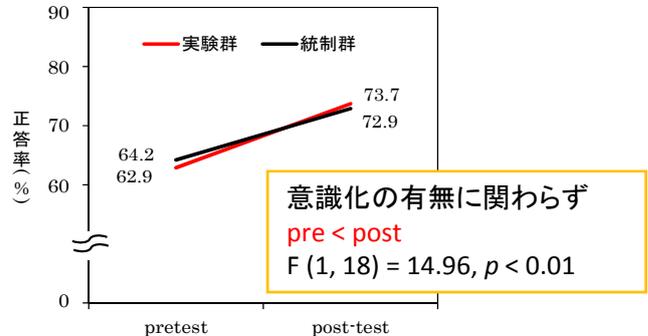
- 分析対象: 復唱, シャドーイング用の課題文から, それぞれ36個の単語をターゲットにアクセント型を判定
- 評定者: 音声学の知識を持つ日本語母語話者2名によって, 聴覚的に判断

## 謝辞

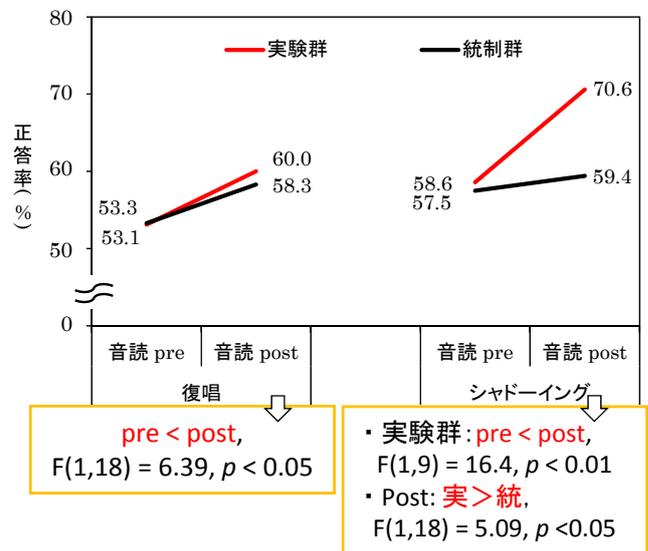
本発表内容は博士論文[7]の一部に修正を加えたものである。  
本研究の一部はJSPS科研費26770158, 24652101の助成を受けた。

## 結果

### アクセント核の聞き取りテスト



### アクセントの産出



## 考察

- ◆ 発音訓練→アクセント核の聞き取りを促進させる
- ◆ シャドーイング中にモデル音声のアクセントを意識的に真似しながら訓練を行なうと, アクセントの産出がより正確になる
- ◆ シャドーイング→オンラインで音声情報を処理するため, 自然なアクセント型の定着に貢献することを示唆
- ◆ 通常のシャドーイングでもアクセントの正答率が上がるが[6], 意識化させるとさらに有効な可能性がある

## 参考文献

- [1] 磯村一弘, 日本語国際センター紀要6, 1-18, 1996.
- [2] スイリボンパイプーン, 日本言語文化研究会論集2, 17-28, 2006.
- [3] Rutherford & Sharwood Smith, *Applied Linguistics*, 6(3), 274-282, 1985.
- [4] 大学共同利用機関メディア教育開発センター, CALL副教材シリーズ 日本語韻律Vol. 1—東京語のアクセントとイントネーション, 2001.
- [5] 鮎澤孝子, 新プロ「日本語」研究班3 平成8年度研究報告書, 179-200, 1997.
- [6] 阿栄娜・林良子, 国際文化学, 25, 17-27, 2012.
- [7] 阿栄娜, 博士論文, 神戸大学, 2013.